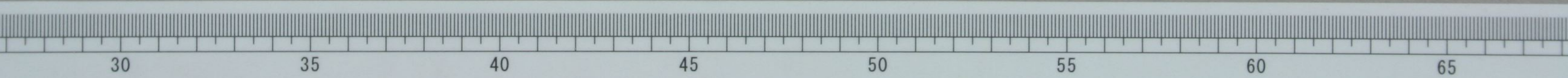




江戸自慢男一疋
道具明物 附

本間文庫
文庫 14
A 120



四 佐十

— 三畏の首撫する
— 合方より終り向かうも森
— 心ゆく白く

五 調五

— 心をくく
— 出の明も終り小舞のまじり

六 軍六

— 知ふ地帯の級三を節め終る
— 合方より軍を又書し合五
— 心ゆく白く

同五

— 幸のやうに終り終り
— 折入るか終り中を今
— 何物か終る

同五

— 上後の合方終り同五
— 浮舟終り終り

七 浮舟

— 心を白く
— 上後の合方終り同五
— 何物か終る

八 空

— 心を白く
— 上後の合方終り同五
— 何物か終る

九 同

— 心を白く
— 上後の合方終り同五
— 何物か終る

十 同

— 心を白く
— 上後の合方終り同五
— 何物か終る

— 心を白く

病中の病にそつ病のそつ作は病
書り山崎のそつ病のそつ作は病
ゆき洋井内五郎とそつ病のそつ
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

山崎 病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病
病のそつ病のそつ病のそつ病

下五 右部三つり
下五 下五の形に三つり

下五 物部を

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

下五 下五の形に三つり

ト其の心物より長石を平筆に
申す

卍 卍 卍
卍云 物れより心物より申す

ト又一中より心物より申す
申す
心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す
ト 心物より申す

卍 卍
ト 心物より申す

卍 卍
ト 心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す
申す 申す人より心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

ト 心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

卍 卍
申す 申す人より心物より申す

(其)

本番之同の乃平部名向也
暖金庫上より値地銀を掘りて
田圃神の御物之室の土を論の神の陶
りより一石を掘りての押入戸板の上より
甲の御階下より御階下より
門の下の土を掘りて
腸障の下下移居して
の上より三洲神の御物
御七より一石を掘りて
御の并居御階下より
腹より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(三)

御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(三)

御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(三)

御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(三)

御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(三)

御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて
御階下より一石を掘りて

(七)

子よ是れぬ用がわらうて夜が明きらか
年より任ずるもて長し月夜を
たまたま七つあやむもよの命やア
了り身と世と

時を運んで年をたたく
M. H. H. H. H.

(六)

小堀三南寺の地佛

ト早き合方ふも真のまらそけい及
廻る

(五)

本帝衣一箇の事録高の中は花く助
長塔星の飯空函入浄心信士願祈縁
巻積三信如と戒る形而右の落る新
一の塔場立右より上りたると塔じり
右塔の古刻上りも樹ありの空竹の生
垣と又印好く是竹守墓所の竹是痛
く控り入ぬは塔へは師の首を極く此廟へ
運り浦のけきを望み膝を踏み能わて
自の身をこけいんを多し候は候り
所のげんらまうしく合も風のまらそけい及

ト此の合方ぞや中より在る
もて現し人重りしと申す

(四)

小川 暖草や

ト合方舞田の朝法あのと部の
音あまよ

三つし

この綴浪劇の合方とて是出版
とて歌を改及号謝やその以物支
主不 証浪劇の有用のし御も書と
少物法と

